



河原小だより



「めあてを持って学び 進んで行動
人のことを思う」河原っ子の育成
～笑顔の登校・満足の下校～

NO.27

R3. 1. 29 (金) 文責: 井上



給食ありがとう！



1月24日からの1週間は「全国学校給食週間」です。わが国の学校給食は、明治22年に貧困な子どもたちの救済事業として始まりました。戦時中食料不足のため一時中断されましたが、昭和21年に児童・生徒の栄養補給を目的として再開されました。その後、子どもたちの健全な発達に役立つものとして、教育活動の一環として定着しています。

本校でも1月22日(金)～29日(金)までを給食週間とし、給食に関する様々な取り組みを行いました。

児童集会

先週金曜日の児童集会、給食委員会の子どもたちが給食の先生方にインタビューして、給食室の様子をビデオ放送してくれました。大きな鍋やしゃもじを見たり、衛生上の工夫を聞いたりして、給食の先生方の苦勞やありがたさを感じることができました。昔は給食室はどの学校にもあり、給食の先生の苦勞や工夫、給食室の様子などを見る機会も多くありました。ところが、今は給食センターが主流で自校給食がっている学校は少なくなっています。河原小は自校給食でランチルーム(本年度はコロナ禍でランチルームでみんなで揃っての会食はできていませんが・・・)もあり、大変恵まれた環境にあります。



食育指導



山西小から学校栄養職員の古田先生に来ていただき、食育指導をしていただきました。例年、低・高学年に分かれていましたが、今年はそれぞれの学年に1時間ずつ入って授業をしていただきました。給食のはじまりやバランスのよい食事の取り方、給食メニューについて楽しく学習しました。6年生は給食メニューを考えました。題して「**6年生が好きだから多分みんなも好きであろうメニュー!**」(キムチご飯、ちくわの二色揚げ、春雨サラダ、わかめスープ)。子どもたちが作ったメニューをアレンジして3月の給食に出してくださるそうです。とても楽しみです!



ありがとうございます

各学年で給食の先生方へ感謝の気持ちをお手紙や寄せ書きにして渡しました。給食委員会の「苦勞することは何ですか?」というインタビューで「冷たい物を冷たいままで出す事」という回答をいただきました。河原小の給食はいつも美味しく、温かい物は温かいままで、冷たい物は冷たいままでいただけます。給食の先生方の苦勞や工夫のおかげで、私たちは毎日栄養バランスのとれた、美味しい給食がいただけるのだと、改めて感謝しました。



今週は給食のはじまりといわれる明治22年の給食から昭和27年～現在の給食まで日替わりでありました。鯨の竜田揚げは私が子どもの頃はよく出ていました。揚げパンは今も昔も子どもたちに人気です。

